

事業番号	15 05 04	事業改善シート (25年度実施事業分)		<input type="checkbox"/> 予算要求	<input type="checkbox"/> 当初予算案	<input type="checkbox"/> 補正予算案	<input checked="" type="checkbox"/> 点検
事業名	「未来を拓く学力」の向上推進事業			担当課	部局	教育委員会事務局	
総合5か年計画	プロジェクト	8-1-2、8-4-2 教育再生プロジェクト			課・室	教学指導課	
	施策の総合的展開	7-1 子ども一人ひとりの個性や能力を伸ばす学校教育の充実 ◆ 未来を切り拓く学力の育成			E-mail	kyogaku@pref.nagano.lg.jp	
				実施期間	H24 ~		

1 事業の概要

目指す姿	<ul style="list-style-type: none"> 授業がよく分かり、学ぶ楽しさを感じる児童生徒が増え、学ぶ意欲が高まる。 教師が授業改善に意欲的になり、教材研究を深め、授業の力量が高まる。 	
現状	<ul style="list-style-type: none"> 知識・技能を活用する力に課題がみられ、授業の質的な向上が求められている。 教員の資質や能力の向上を図る校内研修の一層の充実が求められている。 「伸びる力」をより伸ばす個に応じた多様な教育が求められている。 	
県が関与する理由	県でなければ実施不可(その他)	【左記の説明、根拠法令等】
	県民との協働による実施: 検討中	

事業内容	① 成果目標(H25)			
	<ul style="list-style-type: none"> 授業がよく分かる」と答える児童生徒の割合: H29年度76%に向け、H25年度74.2% 基礎的基本的な内容の定着度が全国平均より高い児童生徒の割合: H29年度小65% 中60%に向け、H25年度小62.4% 中57.2% 全国学力・学習状況調査A問題で平均正答率の半分以下の正答となる児童生徒の割合: H29年度小4.4%中8%に向け、H25年度小5.2% 中10.1% 学習したことを実生活の場面に活用する力が全国平均より高い児童生徒の割合: H29年度小60%中56%に向け、H25年度小58.4% 中54.2% 中3時点で英検3級レベルを有する生徒の割合: H29年度40%に向け、H25年度26.0% 			
	② 事業内容 (単位: 千円)			
	項目	実施方法	H25事業実績	H25 (当初) (決算) H26 (当初)
	子どもの学びを基にした指導改善支援	直接	・全国学力・学習状況調査分析研修の実施 ・管理職マネジメント研修の実施 ・クリア問題・チャレンジ問題の拡充・発信	854 751 3,069
	学力向上のためのPDCAサイクルづくり支援	直接	・「国語、算数・数学、英語」におけるPDCAサイクルづくり支援(P調査、C調査、学力向上ミーティング等)の実施	1,120 915
	校内研修活性化支援	直接	・授業スキル向上研修による支援 ・校内研修の事例研究、手引作成、手引の周知と手引を活用した支援	2,200 1,930 0
外国語教育充実支援 *英語コミュニケーション力アップグレード事業の一部の内容を含むプロジェクト8-4	直接	・CET(英語中核教員)養成プログラムの実施 ・小中高連携による外国語教育充実支援	897 736	
理数教育充実支援	直接	・小学校理科教員のための観察・実験出前講習会の実施 ・一流講師に学ぶ(中学校理科教員の実験実技講習会・高校生の科学教育)の開催	733 651 874	
新たな家庭学習モデル創出事業	直接		0 454	
		合計	5,804 4,983 4,397	

事業コスト	区分(単位: 千円)	23年度	24年度	25年度	26年度
	前年度繰越	0	0	0	0
	当初予算	26,437	5,850	5,804	4,397
	補正予算	-12,372	0	0	0
	合計(A)	14,065	5,850	5,804	4,397
	Aの財源				
	国庫支出金	0	0	0	0
	県債	0	0	0	0
	その他(繰入金等)	0	0	0	215
	一般財源	14,065	5,850	5,804	4,182
決算額(B)	13,417	5,776	4,983		
概算人件費	職員数(人)	2.50	2.50	3.00	3.00
概算人件費(C)	20,645	20,645	24,774	24,774	
概算事業費(B(A)+C)	34,062	26,421	29,757	29,171	

成果目標の達成状況					
項目	H24末(実績)	H25			H26目標
		目標	成果	達成状況	
授業がよく分かる」と答える児童生徒		74.2%	76.8%	達成	—
基礎的基本的な内容の定着度		小62.4% 中57.2%	小64.7% 中54.5%	小 達成 中未達成	小63.1% 中57.9%
平均の半分以下となる児童生徒		小 5.2% 中10.1%	小5.1% 中11.8%	小 達成 中未達成	—
学習したことを実生活で活用する力		小58.4% 中54.2%	小59.7% 中52.3%	小 達成 中未達成	小58.8% 中54.7%
中3で英検3級レベルを有する割合		26.0%	28.2%	達成	—

目標に対する成果の状況	5つの項目のうち「基礎的基本的な内容の定着度(中学校)」、「平均の半分以下となる児童生徒(中学校)」、「学習したことを実生活で活用する力(中学校)」以外は目標を達成している。なお、中学校においては身に付けた知識技能を生かした話し合いや課題を探究していく場が授業の中で少ない状況にあり、目標達成には至らなかった。H25、H26目標は総合5か年計画の達成目標に修正
-------------	--

2 今後の事業の方向性

今後、事業をどのようにしていきたいか	<input type="checkbox"/> 事業を実施しない <input type="checkbox"/> 事業を見直して実施 <input checked="" type="checkbox"/> 事業を現行どおり実施
	学力スパイラルアップ事業の中でPDCAサイクルづくり支援をこれまでよりも小さいサイクルでまわすシステムを強化し、構築することで、児童生徒に確かな学力の定着を身に付けさせていく。 なお、外国語(英語)の教育力の強化は小中高を通じて取り組む必要のある施策であることから「CET(英語中核教員)養成プログラム」は、主要事業である「グローバル人材育成事業」の「外国語教育充実支援事業」へ移行して実施していく。